

## 瀬戸市高齢者総合計画策定委員会（第1回目）

日 時：令和5年6月22日（木）

15時30分から17時5分

場 所：瀬戸市役所4階

大会議室

出席者：●策定委員 10名（2名欠席）

●委託業者 1名

●事務局

鈴木課長、林課長補佐

堀江係長、水野係長

金子主任、加藤主事

（議事：加藤）

### 【議題】

- 1 挨拶
- 2 委員長及び副委員長の選出（資料1、2）
- 3 本会議の公開の有無
- 4 瀬戸市高齢者総合計画の位置づけ（資料3、4、5、A）
- 5 瀬戸市高齢者総合計画実態調査結果報告（資料6、B）
- 6 瀬戸市高齢者総合計画における課題についての意見交換
- 7 瀬戸市高齢者総合計画の策定スケジュール（資料7）
- 8 その他

### 【資料】

#### 《事前配布》

資料A 第8期瀬戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画～やすらぎプラン2021～

資料B 高齢者総合計画実態調査報告書（令和5年3月）

#### 《当日配布》

資料1 瀬戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画評価委員会運営規則(P.1～3)

資料2 高齢者総合計画策定委員会委員名簿(P.4)

資料3 瀬戸市高齢者総合計画の策定について

資料4 瀬戸市福祉分野計画体系図

資料5 瀬戸市高齢者総合計画実態調査結果報告

資料6 瀬戸市高齢者総合計画策定スケジュール

【内容】

**1 挨拶**

- ・健康福祉部長、健康福祉部参事よりあいさつ
- ・策定委員紹介 **資料2**

【委員】※敬称略

伊澤 俊泰（名古屋学院大学）  
青山 貴彦（瀬戸旭医師会）  
大澤 寛樹（瀬戸歯科医師会）  
澁谷 いづみ（瀬戸保健所）  
八木 正宏（瀬戸市社会福祉協議会）  
鈴木 拓馬（瀬戸介護事業連絡協議会）  
山口 利明（瀬戸市民生委員児童委員協議会）  
伊里 みゆき（生活支援コーディネーター（第一層））  
大島 勝幸（瀬戸市老人クラブ連合会）  
伊藤 勉（瀬戸市自治連合会）  
加藤 流慈（市民代表）  
高橋 展子（市民代表）

- ・事務局紹介

**2 委員長及び副委員長の選出**

策定委員会運営規則第4条 **資料1** の規定により委員の互選により選任。

委員長：伊澤 俊泰

副委員長：青山 貴彦

※敬称略

以降、議長は委員長が務める（策定委員会運営規則第5条第5の規定による）。

**3 本会議の公開の有無**

- ・全会一致で公開。
- ・第1回策定委員会の傍聴者：なし

**4 瀬戸市高齢者総合計画の位置づけ**

国から示されている第9期計画策定における基本指針と、市における高齢者総合計画の位置づけおよび瀬戸市の高齢者人口・要介護等認定者数等を、委託業者、事務局より説明。

**資料3**、**資料4**、**資料5**

## 5 瀬戸市高齢者総合計画実態調査結果報告

令和4年度中に行った各種調査の概要と調査結果について、委託業者より報告。(資料6)

### ● 質疑等

- ・ 委員：今回のテーマでは、老人クラブがメインになるような気がした。1、2点考えていることをお伝えしたい。介護人材の確保について、このデータは現状を反映していると思われる。20代、30代の介護人材が少ないという現状は、給料が安いことが原因であると思う。大学を出てすぐ介護関係の仕事をしたという人材が増えるような施策が必要である。公務員と同じような給与体系で、介護人材の確保をしていくことが必要だと思う。老人会については、データ通り年々減っている。70歳、80歳になると免許を返上する方も多く、外出する機会も減る。データ通り1人で家にいるとか話し相手がいないという悪い方に進んでいる。瀬戸市ではみんなを外に行き健康維持に努めてもらいたいとうたっている。しかし、いろいろなサークルを作っても、規定の人員に満たないと県や市に認めてもらえないことが多い。県にも質問したことだが、人数制限は考慮してもらいたいと要望している。30人に満たない場合は、老人クラブの単位としては瀬戸市も愛知県も認めていない。弾力的に運用していただいてよいということも若干書かれているが、瀬戸市は30人を確保しないと認められないため、だんだん組織が弱体化し、組織数も減少してくる。行政がうたっていることと逆になっている。また、会のリーダーになる人がいない。会の運営に関する書類が多く、高齢者には難しい。ある程度簡素化して、ルールを新しく毎年替えるのではなく、今までの踏襲して誰でも交代してやれる体制が必要だと考える。私も初めて会長になったが、大変。市職員や議員の定年後、出来るだけ行政能力に長けた人がリーダーになってほしい。市の行政をお願いをしていきたいと思っている。
- ・ 委員：ご発言いただいた3点については、次第6の意見交換でも改めてお話ししたいと思うが、人材確保や高齢者を支える制度の改善についてもご意見いただいた。意見交換の形になっているが、資料5の調査結果の説明について、アンケートの数字の読み方や理解についてご不明な点やご質問があるか。
- ・ 委員：コロナの感染拡大についてお話ししたい。フレイルが進んでくる契機となっているが、コロナほど世代によって症状が変わる疾患は珍しい。子どもの間で今発熱が多くなっているが、コロナは1割くらいで、アデノウイルスや溶連菌などが流行している。子どもはコロナに罹患しても、ほとんど症状が出ない。高齢者は軽症の人もあるが、重症化すると命取りになる。第7、8波でも亡くなる方が多かった。医療関係や高齢者施設は、ウィズコロナではなくウィズアウトコロナにしたいと考えているが、高齢者に影響が出ることはこれからも続くと思われる。街は人がにぎわっているとテレビでも言ってい

るが、それは若い人に限られていて、高齢者は家でひっそりしている人が多い。高齢者がコロナの心配なく外出できる場所を、どうにか増やしていかなければいけないと、医療関係者は思っている。

- ・ 委員：コロナの影響はアンケートでも外出等々で、相関しているのは間違いないということが出ていた。今回の計画では留意しなければならない。分類は変わったが、今第9波だと言われている。かつてのようにカウントはされていないが、コロナは増えているところであるため、高齢者にとっては非常に怖いと思うと外出のネックになる現象だと思われる。そういうところで、今ご指摘いただいたように、ウィズアウトコロナにはなっていないところで、感染症への懸念が高齢者の活動の阻害要因になっていることは意識しなければと思う。

## 6 瀬戸市高齢者総合計画における課題についての意見交換

- ・ 委員：超高齢化社会の中で、コロナ禍を経験した社会において、高齢者福祉計画と介護保険事業計画の次の3年でどんな視点で検討すればいいか。先ほど、介護人材の確保についてご意見をいただいた。委員会が始まる前の会話の中で、介護人材の主要なポジションも空きが埋まらないということを知った。高齢者の活動が盛んになるために、今までとは違う補助や認定、介護保険から補助される手すりなどの運用についても弾力化できないかといった意見もいただいた。このような個別のことも含めて、次の3年の計画について、ここまでのデータやアンケート結果をにらんだうえで、どのような視点が必要か、委員の皆さんが身の回りで気づくこと、感じていることについて自由にご意見いただきたい。
- ・ 委員：先ほど説明があったが、私が仕事をする中で非常に感じている部分が多くあったと思って聞いていた。人材確保が他の事業所と話していても厳しい現状であり、それは社会福祉協議会も例外ではない。また地域包括ケアシステムの部分で、瀬戸旭医師会等や行政の力のおかげでICTの活用は県内でも進んでいるところである。このあたりをもっと広く活用していけるようになると、より深化という部分では効果的になるのではと思う。また青山先生のお話にあったように、やすらぎ会館の指定管理をしているが、令和2年は緊急事態宣言があり、会館自体が一時休館、一般利用できなくなっていた。休館中はボランティア団体、やすらぎ会館を日ごろ利用している高齢の方は外出先がなくて困っていた。昨年度から会館が平時に近い状態に戻り、一気に利用が広まった。今後この計画の3年間は高齢の方の外出のきっかけを作っていくことが一つポイントになると考えている。
- ・ 委員：人材確保と外出確保ということで、日ごろからご尽力いただく中でご意見い

ただいた。総合計画に必要な視点、これは盛り込みたいという希望等、何かあればご発言をお願いしたい。ぜひ市民代表からもご発言いただきたい。

- ・ 委員：NPO法人まごころの職員として働いている。介護予防サービス等を運営しており、やすらぎ会館でデイサービスも運営している。コロナの間は利用者を守る事が大切ということで、人数が減っている中でもサロン利用者の安否確認や在宅支援で連携を取って利用者の生活支援をさせていただいた。デイサービスの人数も減少し、コロナの間は本当に大変だった。クラスターは発生しなかったため運営をすることはできた。まごころの会員においては、利用者、スタッフとして籍を置き、運営しているカフェに通われている方がそこに行ける安心感を得られるということを大切に思っている。一日一日を利用者の顔を見ることが安心で、コロナ禍の大変な時期を過ごしてきて、その経験をもとに地域全体で高齢者を守っていったらと思って続けていければと考えている。
- ・ 委員：私も後期高齢者になり、仕事を退職してから家にいることがほとんどである。出かけると言っても行き先がないのが現実。私の場合は、金銭がかからない公共施設へ行っている。日頃考えていることは、公民館を中心に活動を増やすと良いと思う。私は品野に住んでいるので、瀬戸よりも多治見の公民館に行く。多治見はいろいろ公民館で事業を展開していて他市の市民も参加できる。瀬戸も公民館を活動拠点にできるような方法が、高齢者にとってよいと思う。瀬戸市は公民館の館長が民間の人になっている。民間の人は自分の仕事があるため、頻繁には活動しない。多治見は公民館長が常勤職員である。異動があるため、異動先で前の公民館での良い事業を展開している。瀬戸も一部良い事業を展開しているところはあるが、全体的には公民館活動が貧弱である。そのため、これから高齢者が出かけるところを探すことが大変である。今、私は車が運転できるため、外へ出かけられる。今後、瀬戸の公民館も市の正規職員ではなく、財団職員でも良いので、館長は常勤職員にして異動しながら事業を幅広く展開するのがいいと思っている。
- ・ 委員：品野台連区には3単位クラブがあり、グラウンドゴルフ等の活動も行っている。
- ・ 委員：童謡唱歌を歌う活動や、公民館のピアノを使ってみんなで歌を歌う等の活動に参加している。多治見市において、筋トレ教室は全施設で行っている。運動教室も自分たちで行っている。単発的ではなく、全施設で盛んにやるためには館長の異動も大切だと考えている。
- ・ 委員：瀬戸市の公民館や地域の交流センターの活動においては、交流センターの活動を行っている連区の会議体で地域力推進協議会というものがあり、市役所ではまちづくり協働課が主管である。その会議でいつも集まって交流センタ

一の運営について議論する会議があり、私は座長として出席している。この会議でいただいたご意見はお伝えしたいと思うが、大島委員もご意見いただいたように市内の公民館でも活発に活動していることがある。現在、地域の交流センター同士でも互いに連携して、いろんなコンテンツを変えて集まる人を増やそうと話し合っているため、より満足いく形で市民へ活動を知っていただかなければいけないと思った。高齢者総合計画に関する視点で、こういうことを念頭に置いて議論したいというご意見があればお願いしたい。

- ・ 委員：先ほど八木委員にご発言いただいたように、地域包括ケアシステムは非常に幅広く高齢者を支えるシステムとなっている。最終的にはACP（アドバンス・ケア・プランニング）のようなものも含めて全体を大きな枠で考えることが必要だと思う。しかし、医療のDXという話もあったが、保険証とマイナカードの紐づけが国で進めてとても齟齬が出ている状況があり、不安も感じていて難しい問題を含んでいる。また高齢者総合計画の策定の話の中で、要介護者の推移について2035年にピークを迎える。高齢者のパーセントは増えていくが、今後は実際の数としては減っていく。それも見据えて総合計画も立てていかなければならない。いろいろなものを作っても12年後には余ってくるということも念頭に置いて考えなければと思う。
- ・ 委員：総合計画は長期を見据えたものであり、ピークの2035年というところを見据える点を持って考えていくべきという重要な指摘をいただいた。

## 7 瀬戸市高齢者総合計画策定スケジュール

- ・ 令和5年度の計画策定スケジュールについて、事務局より報告。(資料7)

## 8 その他

- ・ 今後の委員会開催日について、後日日程調整をさせていただくことを事務局より説明。

以上